

平成 28 年度第 1 回仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議

1. **開催日時** 平成 28 年 7 月 25 日（月） 午後 7 時～
2. **開催場所** 仙台市急患センター・仙台市医師会館 5 階研修会室
3. **出席委員**（敬称略）9 名
飯島秀弥、賀来満夫、川村和久、鈴木直子、高橋将喜、佃祥子、永井幸夫、
八田益充、三木祐
※委員の改選により、7 月 25 日付けで前任の草刈 千賀志委員にかわり川村
和久委員（仙台市医師会理事）が委嘱。

オブザーバー

大内みやこ

講師

遠藤史郎

4. 出席職員

佐々木洋（健康福祉局長）、岡崎宇紹（健康福祉局次長）、下川寛子（仙台市保健所長）、大金由夫（衛生研究所長）、石澤健（健康福祉局保健衛生部長）、沼田和之（健康安全課長）、勝見正道（衛生研究所微生物課長）、田脇正一（危機管理室危機管理課長）、若生明智（危機対策調整担当課長）、鈴木花津（健康安全課感染症対策係長）

5. 内容

1) 開会

2) 挨拶

・川村委員【委員就任のあいさつ】

仙台市医師会理事の川村と申します。小児科をしております感染症その他で、この会議にとって少しでも私の経験や知識が役立つのではないかと。また医師会としてこの会議を支える立場として、少しでも協力できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

・会長

こんばんは、東北大の賀来でございます。平成 28 年度の第 1 回の仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議で、今年度もよろしくお願いいたします。午前中東京で会議があり、そこでも色々な感染の議題が出た。一番の関心はリオオリンピックのジカウイルス感染症が非常に大きな話題となっていた。MERS もサウジアラビアでアウトブレイク続いておりますし、今年どんな感染症が起こって来るかわからない状況です。先日はデング熱の重症例が、以前

に罹っておられて再感染して重症化したのではないかとされています。夏に向けて色々な感染症の問題が出てくると思う。ネットワーク会議は永井先生も含め皆さんから活発な意見をいただき、実りある会議であります。本日も色々な議論をしていただいて、本日は宮城県から大内先生にご参加いただいておりますが、宮城県・仙台市の感染症対策が少しでも円滑に進むように議論していきたいと思っております。よろしくお願します。

3) 議題

- ・ 議事録署名人の指名

鈴木直子委員を指名 (了承)

- ・ 協議

以下のとおり

発言者	議 事
会長	議題(1) 感染症の最近の話題について ①薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランについて 資料1・参考資料に沿って説明 ご意見いかがでしょうか?
飯島委員	データは鶏肉だが、それ以外も出ているか?
会長	私の所のデータは鶏肉だが鶏肉以外の報告もある。豚も牛も注意していかなくていけない。
川村委員	AMR アクションプランは大きな問題を抱えている。それぞれの立場で、国は国で政策をつくる、病院は病院で様々な対策をする。医師会も開業医という立場から意識を啓発するなかで、抗生物質が何に効くか分からない患者さんに求めるなどという啓発活動が必要だと思っている。商工会議所の一口メモの中に抗菌薬の適正使用という項目を載せ、抗生物質を求めない賢い患者になりましょうと。それぞれの役割に応じた、病院・医師会など様々なネットワークの中でそれぞれの立場でと。うち(クリニック)で今月号に抗菌薬の適正使用という新聞をつくって患者さんに配布したが、それ東北大学賀来教授の教室のメールで引用していただけた。地道な活動、商工会議所に個人で出したわけではなく医師会担当として出したのは意味があると思っている。
会長	川村先生がおっしゃったことはとても大切で、医療側が抗生物質を的確に使おうと思っても患者側がなぜ抗生物質をくれないのかと言われることも多く、色々な意味で川村委員のような啓発活動が重要です。このメディカル・ネットワーク会議で、薬剤師会、歯科医師会、看護師会とすべての職種の方が集まっているので県民・市民に向けてアクションプランを正しく啓発していくよう。市民公開講座や医師会

	<p>からの提言や、仙台市から宮城県からとこれからもしていかななくてはならないと思う。私もそういう活動が重要と感じている。新興ウイルス感染症も大切だが、薬剤耐性菌も大きいのでテーマの一つとして考えさせていただきたい。ネットワークをつくることで、みなさんと協議していくと（耐性菌の検出率が）下がっていくのは事実だが、そこに一般市民の方の意識も非常に大きいと思うので、これからも対応していきたいと思う。</p> <p>次に、②熊本地震支援（4月20日～4月22日）～避難所のトイレ視察～ 遠藤先生お願いします。</p> <p>遠藤先生は、東日本大震災の際も被災地を回って感染症のアセスメントしておりました。今回の熊本地震でも国からの要請がありまして、国立感染症研究所の先生と視察をされたという事で、ご報告をお願いします。</p>
遠藤先生	資料2に沿って説明
会長	<p>熊本県の対応について報告いただいた。東日本大震災の時、県で中心的に対応していただき大内先生とは一緒に対応したが、宮城県でつくった感染症予防の8か条が熊本県は9か条に直している。「土足で避難所に入らないで下さい。」と入れている。熊本県のホームページに掲載されている。宮城県での震災の時に、色々な対応をさせていただいたことが非常に活かされているところが多かったと聞いている。厚生労働省の方も、今回はいい方向もあったと言われていますので、それも併せて報告させていただきます。熊本は、少しずつ落ち着いてきていると思うが、避難所の閉鎖がされていない状況。今後もバックアップ体制をとっていきたいと思う。どうもありがとうございました。次に（2）新型インフルエンザ等対策等について ①仙台市感染症に係る病院ネットワークの構築について</p>
事務局（沼田課長）	資料3に沿って説明
会長	<p>仙台市感染症に係る病院ネットワークということで、耐性菌の話題も出たように、今後どのような新興ウイルス感染症が入って来るかもしれないということがある。病院同士の情報ネットワーク・協力関係をどのようにつくっていくのか非常に大きい課題と思っている。集まっていたいただいた16病院の方々がお互いの連携を取りやすいように、危機的な状況の時に支援ができる体制をぜひともつくってほしい。仙台市の方で構築するに至った。今ご説明をいただいたが、委員の先生からご意見・ご質問を受けたいがいかがか？ぜひ医師会の先生方にも色々お入りいただき、医療関係のことも含めネットワークをつくっ</p>

	ていきたいと思っている。
飯島委員	参加対象者ですが ICD・ICN 等とあるが薬剤師や検査技師も含めていただきたい。川村先生から医療を受ける側の抗菌薬に対する意識の話がありましたが、残念ながら医師の方に抗菌薬を使う十分な素養がない人がある。理由の一つには、大学で細菌学の講義はあったが、あまり感染症の講義は無かったことなど関係していると思う。熱が出れば…、とりあえず抗生物質を使うということが一般の病院でもでてくる。それに歯止めをかけるのが薬剤師、検査の方。そのような情報も欲しいので、ぜひ参加対象者については ICD チームの各メンバーも入れていただくとよろしいと思う。
会長	貴重なご意見ありがとうございます。ICD・ICN 等とあるので含まれていると思うが、仙台市からお声掛けをお願いしたい。
事務局（沼田課長）	我々も多様な職種の方からのご参加ということで、職種として医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師まで明示し幅広く参加の案内をしている。
会長	ありがとうございます。このネットワークはとても重要だと思っている。多剤耐性緑膿菌の時には、色々な方に集まっていたいただき、お互いのデータを共有しディスカッションしたのが結果的に、講習会を開いたり、皆さんと情報を共有するなどすごく大きかった。今回のジカウイルス感染や新興ウイルス感染、薬剤耐性菌も含めて、病院ネットワークが今後繋がっていくと思っている。よろしくお願ひします。
八田委員	こういったネットワークは大事と思う。ぜひ参加させていただきたいと思う。
三木委員	ことが起こってからみんなで集まろうと思ってもなかなか大変で、このようなネットワークができていれば何か起こった時にすぐに気付いてみんなで対策をとっていけば広がらずに済む。非常によい試みだと思う。
永井委員	この件で、保健所長からご説明いただいた時に、この会をどうやって運営するのか？各病院から希望者を受け入れたら 100 人以上になってしまうのではないかと尋ねたが、各施設から 2,3 人で 50 名位と考えていると聞いていたが、会の運営について教えてもらいたい。
事務局（下川所長）	申し込みは各 3 名程としているが、何人もの参加の希望があれば拒むものではない。ただ意見交換の場としては顔の見える形式でつくっていききたいと思っている。意見を聞きたい方の参加は可能と考えている。
大内室長	すばらしい計画と思って拝見していた。県もこのようなネットワー

	クをつくらなくてはならないと相談しているところで、参考にさせていただく。いずれたまたま拡大バージョンとして合同でできることも実現すれば、ありがたいと思う。
高橋委員	この病院ネットワークがある程度完成したら、開業医にも広めていくのか？
事務局(下川所長)	このネットワークについては、例えば新型インフルエンザであったり、大規模な感染症が起こった時に入院・診療の中心となってくださる病院を中心としたネットワークと考えている。開業の先生方のネットワークに関しては、メディカル・ネットワーク会議に医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会など色々な団体から構成されているので、これが代表的なネットワークと考えている。
会長	このメディカル・ネットワーク会議が医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会・学校・県と幅広くあるもの。これから色々なアクションプランが出てくると思うが、共有する形でメディカル・ネットワーク会議でも紹介したりなど対応していきたい。 次に(3)その他のご意見はないか？
永井委員	賀来先生がお話した Dengue 熱の死亡例はネットや新聞でしか知らないが、詳しい情報がわかれば教えてほしい。
会長	国立感染研究所の Dengue 熱を研究しているグループの先生とディスカッションをしたが、前にどういうことがあったのか？血液検体はどうなっているかも詳細はわかっていない。Dengue のどのタイプだったかなどこれから解析がありえると思うが、2 回目の感染であったのか等、今日の段階では感染経路は把握していないようだった。重症例として亡くなった初めてのケースなので、メディアも取り上げているし、厚労省も含め今後十分フォローしていくと思う。 他にないか？それでは議事を終了とします。

議事録署名

今谷 亜子



【出席者】

委員	飯島 秀弥	公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院 呼吸器内科 主任部長
委員	賀来 満夫	東北大学病院医学系研究科 総合感染症学分野 感染制御・検査診断学分野教授
委員	川村 和久	一般社団法人 仙台市医師会 理事
委員	鈴木 直子	一般社団法人 仙台市歯科医師会 副会長
委員	高橋 将喜	一般社団法人 仙台市薬剤師会 副会長
委員	佃 祥子	公益社団法人 宮城県看護協会 会長
委員	永井 幸夫	一般社団法人 仙台市医師会 会長
委員	八田 益充	仙台市立病院 診療部 感染症内科 医長 感染症対策室 室長
委員	三木 祐	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 呼吸器内科部長 感染対策室長

オブザーバー 大内 みやこ 宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室長

講師 遠藤 史郎 東北大学病院感染管理室 副室長

(事務局)

佐々木 洋	仙台市健康福祉局長
岡崎 宇紹	仙台市健康福祉局次長
下川 寛子	仙台市保健所長
大金 由夫	仙台市健康福祉局衛生研究所長
石澤 健	仙台市健康福祉局保健衛生部長
沼田 和之	仙台市健康福祉局健康安全課長
勝見 正道	仙台市健康福祉局衛生研究所微生物課長
田脇 正一	仙台市危機管理室危機管理課長
若生 明智	仙台市危機管理室危機対策調整担当課長
鈴木 花津	仙台市健康福祉局健康安全課感染症対策係長